





25

24 牧馬

エンリコ・コールマン

一面

一八八三年

油彩・キャンヴァス

本紙八八・一×二五三・三

25 春野奔馬

フェルディナンド・ベベ

一面

一九〇二年頃

油彩・キャンヴァス

本紙一四七・〇×二二六・三

「牧馬」(作品番号24)は、明治十七年(一八八四)に特命全権公使としてイタリアに赴任していた浅野長勲が帰国時に持ち帰り、明治天皇へ献上したものであり、「春野奔馬」(作品番号25)は、明治三十五年(一九〇二)に欧米各国の巡遊を終えて帰国した伊藤博文からの献上品である。いずれも放牧された馬が自然の中を駆ける姿を描いたものであり、十九世紀後半のイタリアやフランスで主流となっていた自然主義、写実主義の特徴を有する作品である。ヨーロッパに赴いた政府高官が、こぞってイタリア画家の絵を献上品として選んだのは、当時イタリアは、「芸術の発祥の地」であり「美術ノ根本地」であるという認識が日本側にあったこと(工部美術学校の研究「イタリア王国の美術外交と日本」河上眞理、中央公論美術出版、平成二十三年)が大きな理由だろう。

「牧馬」は、イタリアに留学していた洋画家松岡壽が遺した自筆日記に、関連する記述が認められる。それによれば、明治十六年十月三十一日に松岡は浅野とともに、ローマのエンリコ・コールマン(一八四六―一九二二)の画室を訪ね、明治天皇へ献上するために揮毫した群馬の図を見たこと(「松岡壽研究」青木茂・歌田眞介、中央公論美術出版、平成十四年)。つまり、この絵はそもそも献上のために浅野が注文して描かせたものであり、「揮毫せしめたる」という日記の書きぶりから、この時点で描き上げられていたものと考えられる。エンリコ・コールマンは動物画の名手として知られた画家であり、本図の躍動感に満ちた群馬の表現からもその技術の高さがうかがえる。

伊藤博文が献上した「春野奔馬」は、イタリアの画家フェルディナンド・ベベ(生没年不詳)によるもので、鮮やかな春の草花に彩られた草原を、放牧された七頭の馬が勢いよく駆け巡る。画面左の遠景には汽車の姿が描かれており、黒煙をあげて走る汽車の力強さと、疾走する馬たちの躍動感が合わさって、画面には春の若々しく活気に満ちた雰囲気漂っている。フェルディナンド・ベベについては、不明な点が多いが十九世紀後半にナポリで活動していたことが確認される。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan